重要自然マップ 2015

仙台湾沿岸

凡例

※2015年段階の情報を元に作成しています。

- 津波浸水域(拡大図では白枠)
- 重点エリア拡大図範囲

■海 域

① 藻場
- 大型褐藻類藻場(2012-2013)
- モニタリングサイト1000 (藻場)
- 生態系監視調査

② アマモ場
- アマモ場(2012-2013)
- モニタリングサイト1000 (アマモ場)
- 生態系監視調査

③ 干潟
- 干潟(2014-2015)
- モニタリングサイト1000 (干潟)
- 生態系監視調査
- 有識者による情報

■陸 域

④ 砂丘 (砂浜)
- 砂丘 (砂浜)
- 砂丘 (砂丘植生)

⑤ 海岸断崖地の自然植生
- 海岸断崖地の自然植生

⑥ 残存樹林地
- 残存樹林地 (自然林)
- 残存樹林地 (二次林)
- 残存樹林地 (植林等)

⑦ 樹林跡地(モザイク状の多様な撹乱環境)
- 樹林跡地(モザイク状の多様な撹乱環境)

⑧ 湿生草原
- 湿生草原 (淡水性)
- 湿生草原 (塩性)

⑨ 二次草原
- 二次草原

⑩ 非耕作農地 (水田雑草群落)
- 非耕作農地 (水田雑草群落)

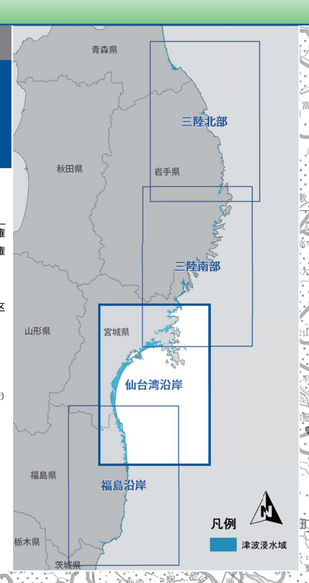
⑪ 河川・湖沼等開放水域
- 河川・湖沼

■その他重要な自然を補足する情報

- レッドリスト掲載種の生育地 (植物)
- レッドリスト掲載種の生息地 (動物)
  ※それぞれの種名については非公開としています
- 特定植物群落 (第5回基礎調査)
  ※津波浸水域周囲のみ
- 日本の白砂青松百選
- 日本の渚百選
- 日本の音風景百選
- 日本のかおり風景百選
- 日本の快水浴場百選
- 未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選
- ガン・カモ類 (モニタリングサイト1000 (ガン・カモ類)、ガン・カモ類の生息調査)
- シギ・チドリ類 (モニタリングサイト1000 (シギ・チドリ類))
- 海鳥 (モニタリングサイト1000 (海鳥)、生態系監視調査 (海鳥))
- 社寺位置
- ジオサイト (三陸ジオパーク)
- みちのく潮風トレイル
- 重点地区調査ベルトトランセクト
- 重点地区調査地点
- 保全について議論されている区域
- 保全対策区域
- 保護区

■法規制

- 区画漁業権
- 共同漁業権
- 国立公園
- 国定公園
- 鳥獣保護区



13A 女川湾

生態系監視調査（藻場）

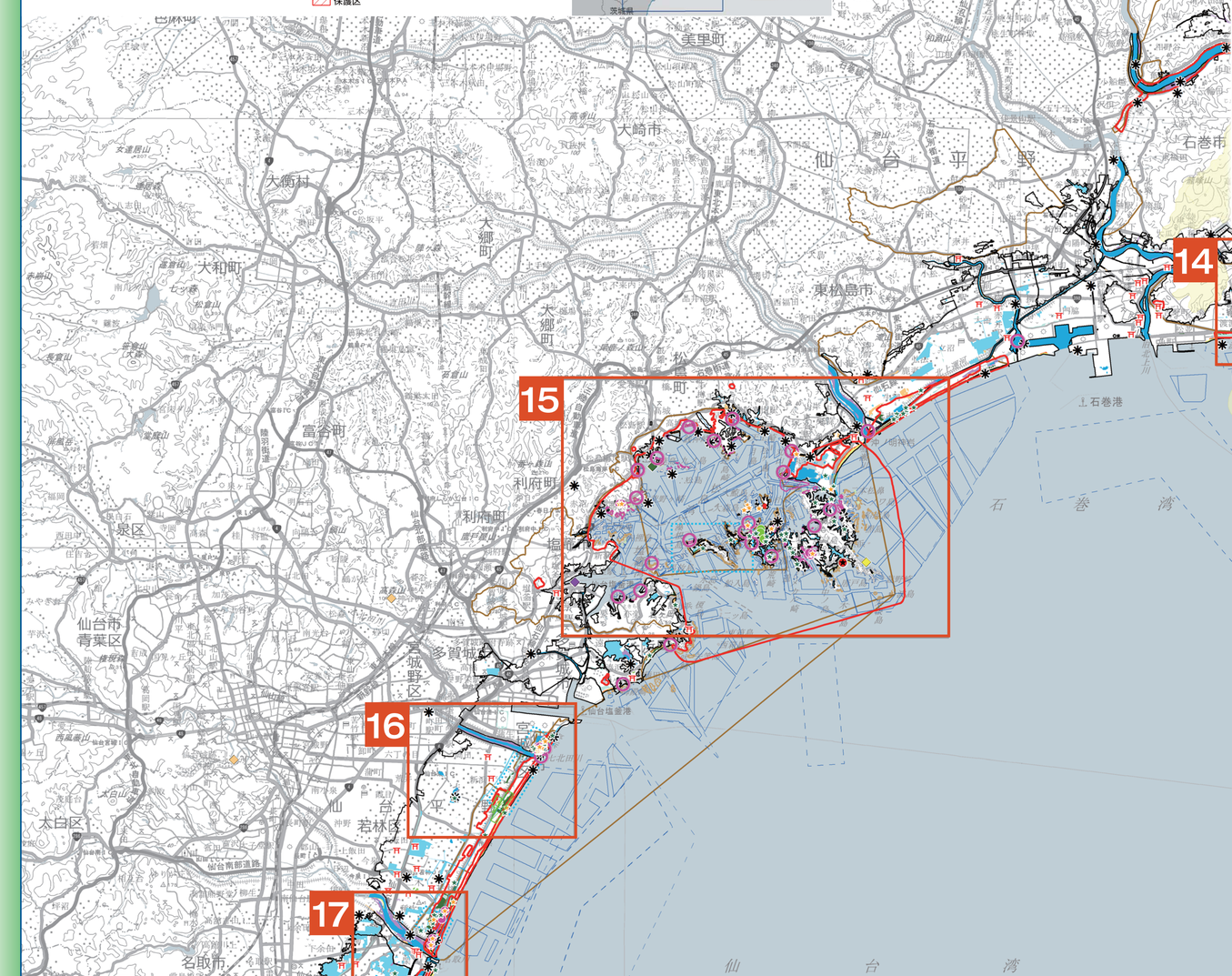
混生藻場である。2014 年、2015 年調査とも分布傾向は同様で、水深 1～3 m程度の浅場はマコンブが、それ以深はワカメが優占し、浅場には紅藻のアカバやマルバツノマタ等が生育していた。2014 年には一時的にウスバアオノリとナガアオサ等のアオサ類が大量発生した。

13B 足島等

江島を中心とする江島列島には、オオミズナギドリ、ウトウのほか、オオワシ、オジロワシ等の希少な渡り鳥が飛来する。

生態系監視調査（海鳥）

足島は「陸前江ノ島のウミネコおよびウトウ繁殖地」として国の天然記念物に指定されており、2015 年の時点では、両種のほか、オオミズナギドリの営巣地も確認された。近年ではドブネズミによる希少鳥類への影響が危惧されている。震災後は、津波等によって植生の変化がみられたものの、海岸線の植生被度はほとんど変わらず、震災の直接的な影響は少なかった。



14 万石浦

※アマモ場の分布図は 2012 年の衛星画像を判読し作成されたため、現状 (2015 年) の高被度なアマモ場の分布は本マップに図示されていない。

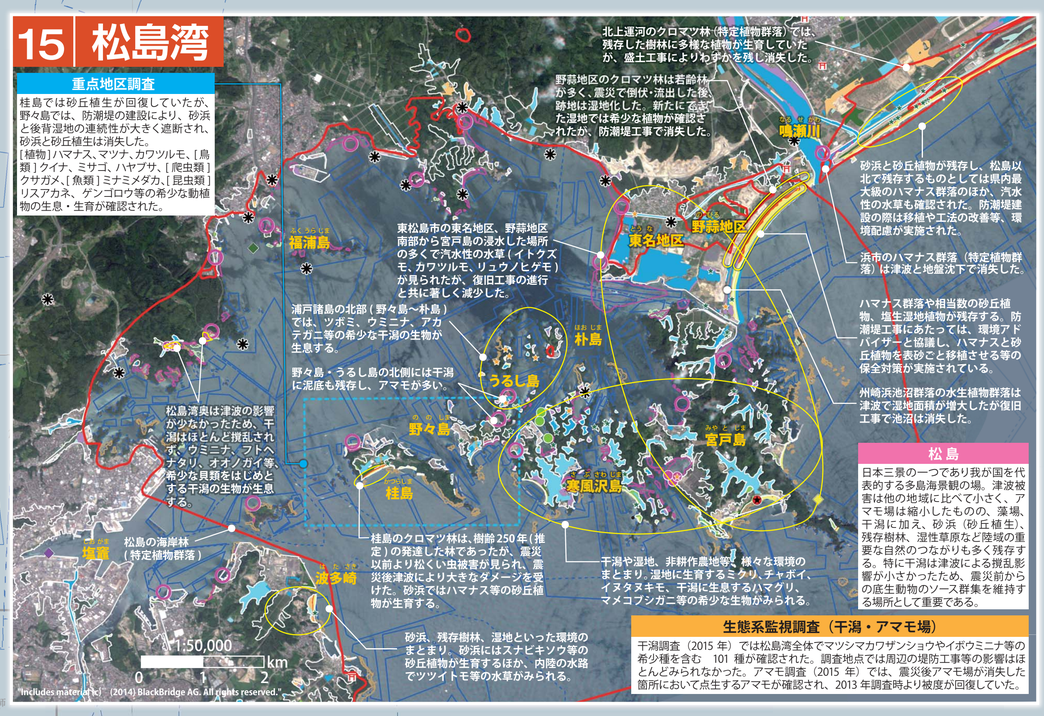
生態系監視調査（干潟）

大浜地区の干潟は地盤沈下でほとんどが水没した。猪落地区では潮上帯であったところが潮間帯となり、底生動物の新たな生息場所となった。2014 年には、これらの地区で震災前と同程度の種数が確認され、また県内での分布は稀なカワアイが多くみられた。万石浦の固有種のマンゴクウラカワザンショウは 2014 年以降には確認されていないものの、2015 年調査ではツブカワザンショウ、サキグロタマツメタ、アラムシロ等のほか多毛類も多くみられ、万石浦全体として干潟生物は回復傾向を示している。

生態系監視調査（アマモ場）

震災により、万石浦のアマモ場面積は 16% 程度まで減少した。2013 年調査では黒島の西岸周辺とそこから少し沖で点生が確認されたが群落形成には至らず、2014 年では岸をはの浅所でアマモ場がみられるのみであった。2015 年調査では震災前には及ばないものの、110m にわたるアマモ場の回復がみられた。

15 松島湾



重点地区調査

桂島では砂丘植生が回復していたが、野々島では、防潮堤の建設により、砂浜と後背湿地の連続性が大きく遮断され、砂浜と砂丘植生は消失した。[植物] ハマナス、マツナ、カワツルモ、[鳥類] クイナ、ミサゴ、ハヤブサ、[爬虫類] クサガメ、[魚類] ミナミメダカ、[昆虫類] リスアカネ、ゲンゴロウ等の希少な動植物の生息・生育が確認された。

松 島

日本三景の一つであり我が国を代表的する多島海景観の場。津波被害は他の地域に比べて小さく、アマモ場は縮小したものの、藻場、干潟に加え、砂浜（砂丘植生）、残存樹林、湿性草原など陸域の重要な自然のつながりも多く残存する。特に干潟は津波による撹乱影響が小さかったため、震災前からの底生動物のソース群集を維持する場所として重要である。

生態系監視調査（干潟・アマモ場）

干潟調査（2015 年）では松島湾全体でマツシマカワザンショウやイボウミニナ等の希少種を含む 101 種が確認された。調査地点では周辺の堤防工事等の影響はほとんどみられなかった。アマモ調査（2015 年）では、震災後アマモ場が消失した箇所において点生するアマモが確認され、2013 年調査時より被度が回復していた。

16 七北田川河口域

モニタリングサイト 1000（ガン・カモ類、シギ・チドリ類）

2013 年のガン・カモ調査では、コクガンやクロガモ等 15 種の鳥類が、2014 年のシギ・チドリ調査ではシロチドリ等 14 種の生息が確認された。

生態系監視調査（干潟）

2014 年、2015 年調査では、アシハラガニ、コメツキガニ、イソシジミ等干潟を代表する底生動物や、ヨシダカワザンショウ、フトヘナタリ等の希少種が確認された。2014 年調査でみられたヤマトシジミは 2015 年時点で確認されなかった。

蒲生干潟

干潟やヨシ原、砂浜等を含む潟湖状の湿地で、ハママツナ等の塩生植物やカワラハンミョウ等砂浜に生息する昆虫類、シロチドリ等のシギ・チドリ類や渡り鳥等、希少な動植物が多くみられる。津波により壊滅的な被害をうけ、その後豪雨や導流堤周辺での砂の移動等の影響もあり、環境は不安定である。砂丘植生は比較的早く回復傾向がみられるものの、干潟生態系の回復はまだ時間がかかると思われる。

重点地区調査

蒲生干潟と一体の七北田川には湿性草原（ヨシ原）が残り、水域とヨシ原がまとまりをもって分布する。[植物] ハママツナ、ハマナス、アイアシ、[鳥類] オオソリハシシギ、アカアシシギ、オオセッカ、[昆虫類] マダラヤンマ、ヤマトマダラバッタ、カワラハンミョウ、[その他無脊椎動物] アリアケモドキ等の希少な動植物が生息・生育する。

砂丘植物保全の取組

海岸ではハマナス群落が大きな面積で残存し、ハマニガナやハマボウフウ等の希少な砂丘植物が生育する。防潮堤工事を進めるにあたり、国土交通省は希少種の生息・生育状況により保全対策エリアを設定し、施工計画の調整や表土の保全等を実施した。

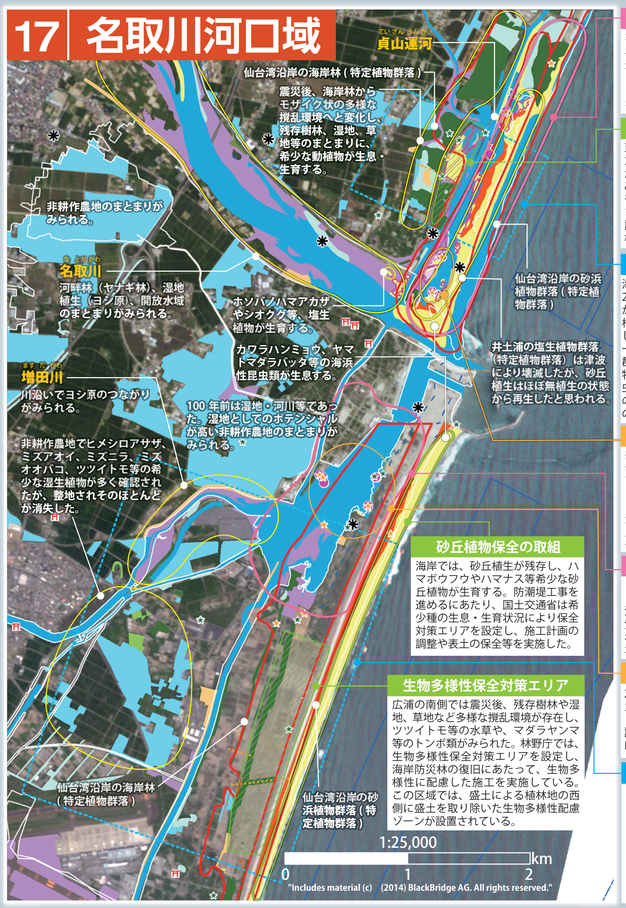
南蒲生 / 砂浜海岸エコトーン

林野庁では生物多様性保全対策エリアを設定し、海岸防災林の復旧にあたって生物多様性に配慮した施工を実施している。この区域は、海岸林と海岸エコトーン（海と陸、河川が出会う境界領域：生態系の推移帯）の自律的再生を目指す場所として保全されており、仙台湾岸において砂浜海岸タイプの自然環境が連続して残存するエリアとして極めて貴重な場所である。オミナエシの群落や、イヌセンブリ（湿生植物）、カワラハンミョウ（海辺の甲虫）、リスアカネ（トンボ類）等希少な動植物が多く確認されている。

貞山運河

貞山運河は、治水や利水機能に加え、歴史、環境、景観等の魅力を有する土木遺産として知られる。震災後、センダイハギ群落やハマハタザオ等希少な植物が確認されたが、堤防改修工事が開始され、現在の生育は未確認である。宮城県による「貞山運河再生・復興ビジョン」のもと、環境配慮が実施されている。

17 名取川河口域



井土浦

砂浜や干潟、湿地、残存樹林、非耕作農地等の多様な自然のまとまりがみられる。震災前は、貞山運河に架かる橋が近くにないため人の出入りが少なく、原生的な海岸風景を残す貴重な場所であった。震災後、潟湖状態に戻ったが、2016 年現在は、名取川への開口部に砂が堆積し閉塞している。

仙台市井戸東谷地の保全計画

東谷地のヨシ原は津波で消失し、干潟に変化した。貞山運河の堤防が破壊された箇所から海水が出入りしており、シギ・チドリ類や底生動物もみられることから、井土浦と井土東谷地を一体の干潟生態系として保全することが学識者等から望まれている。これを受け、宮城県では貞山運河の護岸復旧に際し、井土浦と東谷地が通水可能な構造を採用する干潟環境の保全を計画している。

重点地区調査（井土浦）

海岸側は、2012 年は裸地の面積が多かったが、2013 年はホソバノハマアカザ、シオクグ、砂丘植生が繁茂した。2014 年から 2015 年度調査では塩生植物が衰退・消失する一方で、ヨシの繁茂を確認した。内陸側では、小パッチの植物群落から、単一のサザ群落、ススキ群落、セイタカアワダチソウ群落、ニセアカシア群落への変化が確認された。[植物] センダイハギ、オオクグ、[鳥類] ミサゴ、[昆虫類] ヤマトマダラバッタ、カワラハンミョウ、[その他無脊椎動物] ヤマトシジミ、アリアケモドキ等の希少な動植物が確認された。

生態系監視調査（干潟）

井土浦では、震災後干潟の生物の生息種数は減少したが、その後増加傾向にある。2014 年調査では、希少種としてヨシダカワザンショウ、オオノガイ、アカテガニなどが確認されている。フトヘナタリは井土浦では確認されず、井土浦から津波で流されてきたと思われる個体が井土東谷地で発見された。2015 年調査でも環境は変化せず、希少種を含む多様な種がみられた。

広浦

ヨシ原、干潟を有する湿地で、希少な種を含むイトトンボ類が生息していた。津波により東側の干潟とヨシ原はほとんどが消失したが、西側の砂泥質の干潟は多くが残存し、ヨシ原も小面積でみられる。中洲では泥底は流出し、津波後は砂質となったが、最近は干出面積が増大傾向にある。

生態系監視調査（干潟）

2014 年調査では、希少種としてヒナタムシヤドリカワザンショウ等のカワザンショウ類、サビシラトリ、アリアケモドキ等が確認された。2015 年調査でも環境は変化せず、希少種を含む生物相は維持されている。

重点地区調査（広浦）

防潮堤の海側と内陸側に砂丘植生がわかれており、海側では本来の砂丘植生が、内陸側ではメマツヨイグサ等、荒地に見られる多年生草本を含む砂丘植生が分布していた。非耕作農地は造成後、ビニールハウス群となり、植林跡地は大部分が盛土され、新たな植林地となった。[植物] アイアシ、[鳥類] シロチドリ、[昆虫類] マダラヤンマ、ヤマトマダラバッタ、[その他無脊椎動物] アリアケモドキ等の希少な動植物が確認された。

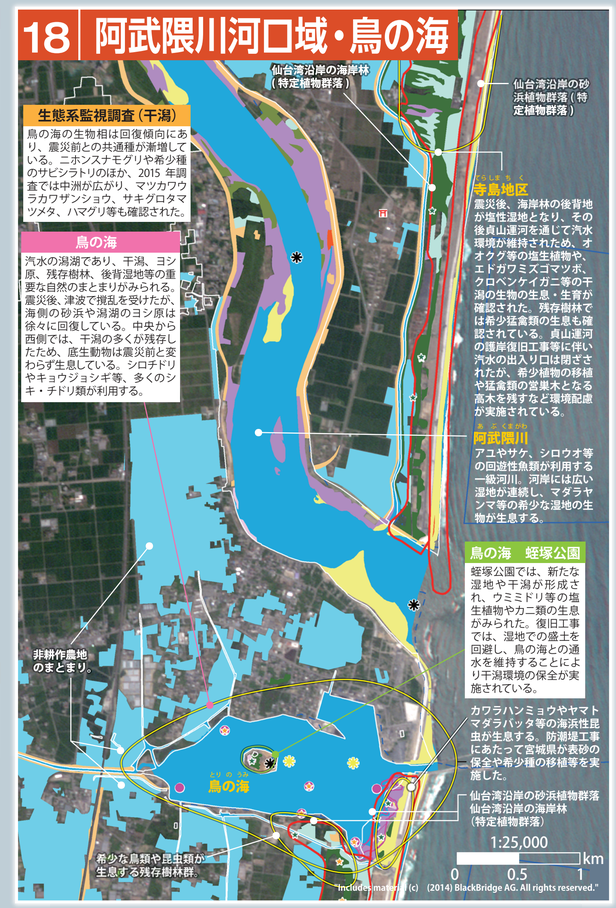
砂丘植物保全の取組

海岸では、砂丘植生が残存し、ハマボウフウやハマナス等希少な砂丘植物が生育する。防潮堤工事を進めるにあたり、国土交通省は希少種の生息・生育状況により保全対策エリアを設定し、施工計画の調整や表土の保全等を実施した。

生物多様性保全対策エリア

広浦の南側では震災後、残存樹林や湿地、草地など多様な撹乱環境が存在し、ツツイトモ等の水草や、マダラヤンマ等のトンボ類がみられた。林野庁では、生物多様性保全対策エリアを設定し、海岸防災林の復旧にあたって、生物多様性に配慮した施工を実施している。この区域では、盛土による植林地の西側に盛土を取り除いた生物多様性配慮ゾーンが設置されている。

18 阿武隈川河口域・鳥の海



生態系監視調査（干潟）

鳥の海の生物相は回復傾向にあり、震災前との共通種が漸増している。ニホンスナモグリや希少種のサビシラトリのほか、2015 年調査では中洲が広がり、マツカワウラカワザンショウ、サキグロタマツメタ、ハマグリ等も確認された。

鳥の海

汽水の潟湖であり、干潟、ヨシ原、残存樹林、後背湿地等の重要な自然のまとまりがみられる。震災後、津波で撹乱を受けたが、海側の砂浜や潟湖のヨシ原は徐々に回復している。中央から西側では、干潟の多くが残存したため、底生動物は震災前と変わらず生息している。シロチドリやキョウジョシギ等、多くのシギ・チドリ類が利用する。

1:120,000
0 5 10 km

平成 28 年 3 月発行　環境省自然環境局生物多様性センター
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図 20 万を複製したものである。（承認番号　平 27 情複、第 1348 号）」
環境省 自然環境局 生物多様性センター Biodiversity Center of Japan